

# 「ALL RIGHT」



(オーライ) 「大丈夫／うまくいく (All Right!)」  
「誰にも (All)、幸せになる権利 (Right) がある」

Vol.4  
2024年7月

## ●拡大運営部会を開催

### 「立ち直り支援」の関係者一同で“初顔合わせ”

東京社会福祉士会「立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業部」の拡大運営部会がさる6月11日、新宿区内でリモート併用で開催され、同日までに発足している7支部（あだち、おおた、江東、杉並、世田谷、西多摩、三鷹武蔵野<五十音順>）の運営メンバーと、事業部の業務執行に携わる運営部員、担当理事、本会事務局、ならびに休眠預金活用事業の資金分配団体である「更生保護法人日本更生保護協会」の事務局など、関係者が初めて一堂に会して、“顔の見える関係”づくりを行いました。

会場となったのは、各支部からのアクセスの“中立性”を考慮して選定された新宿駅前の貸会議室。開始時間は、各々本業の勤務を終えてから無理なく参加が可能なように「19時半」とされ、弁当を用意しての開催となりました。出席者はオンライン参加6名を含む32名。



会場参加とリモートの併用で実施された「拡大運営部会」。発言しているのは生駒部長

#### もくじ

- 拡大運営部会を開催  
「立ち直り支援」の関係者一同で“初顔合わせ” ..... 1
- 地区の動き ..... 4
  - ・ 北区社会福祉士会（事業の説明・質疑応答）
  - ・ おおた社会福祉士会（TSネット全国大会／定例会）
- 立ち直り支援FAQ ..... 6
- 立ち直り支援～今後のスケジュール ..... 7

- 司法福祉ニュースリーダー ..... 8  
滋賀県での保護司殺害事件を受けて
- 専門分野研修2（8/4）の開催案内 ..... 9
- 基礎分野研修2（8/25）の開催案内 ..... 10
- 広域ネットワークシンポジウム第2回（9/29）開催案内 ..... 11
- Informaion（今年度は残り1枠／実践研究大会で演題募集中） ..... 12
- リレーコラム「立ち直り事業部に期待すること」 ..... 13

## まずは「互いに知る」——事業紹介、メンバー紹介

拡大運営部会では、事業部から自己紹介および事業報告が行われ、次いで各支部（あだち社会福祉士会、おおた社会福祉士会、江東立ち直りを支える会、立ち直り杉並、西多摩、特殊詐欺被害者支援世田谷の会、三鷹武蔵野たちなおり=いずれも支部設立申請書記載の名称=）から設立経緯・活動内容・支部の特長や抱負・所属メンバーの紹介が行われました。さらに日本更生保護協会の担当者（2名参加）から、「立ち直りを支える地域支援ネットワーク創出事業」にかかる説明や当会事業に対する期待などが述べられました。



## 顔の見える関係を築く——フリートークで掘り下げ

その後、参加者同士が自由に名刺交換して、活動内容や問題意識について質問し合い、互いの話に耳を傾けるフリートーキングの時間が持たれました。かねてより、「支部の枠を越えて、この事業にかかわる皆さんと幅広く交流の機会を持ちたい」「ネットワークの輪を広げたい」「今後の活動の参考に取り組みの具体例や展望について意見交換したい」といったご要望が事業部に寄せられていたことから、ぜひとも今回実現を図ろうと計画していたものでした。正味20分ほどの短い時間ではありましたが、ネットワーキングにお役立ていただけたのではないかと思料します。



## ところで、「拡大運営部会」とは？

順番が前後して恐縮ですが、そもそも「拡大運営部会」とは何なのか——について補足します。文字通り、拡大版の運営部会なわけですが、運営部会とは「立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業」を進めるために、月1回、事業部において開催している協議の場のことです。事業部には現在11名の東京社会福祉士会会員が「部員」として参画し、支部への各種支援、研修の企画・開催、広域の連携体制構築、情報発信などを行っており、その進捗状況を共有したり、方針を決定したりしているのが「運営部会」です。

今回、実際に地域支援ネットワークづくりに取り組んでいただく支部の皆さんと、休眠預金活用事業の資金分配団体である日本更生保護協会のご担当にもお声かけさせていただき、顔合わせを兼ねた拡大版の運営部会として開催させていただきました。内容は自己紹介とフリートーキングに終始しましたが、これを一つの出発点として、継続的に横の連携強化を図る取り組みを企画してまいりたいと考えます。

図 事業のスキームと今回の拡大運営部会の位置づけ



通常の運営部会は月1回、事業部の事業部員がZOOM等で集まって、業務の進捗状況の共有や、方針決定を行っています。



○で囲ったところです

今回の拡大運営部会は支部の皆さんと日本更生保護協会のご担当にも加わっていただき、対面&リモートで開催しました。

○ + ○

で集まりました



## ●地区の動き

**事業説明会、支部イベントも続々開催しています！**

—— 直近の説明会の模様、支部イベントをご紹介します ——

**北区社会福祉士会**

(6/27実施)

**立ち直り支援のフィールドに社会福祉士が参画することの意義**

北区社会福祉士会の定例会（6月27日開催）で、立ち直りを支える地域支援ネットワーク事業に関する説明の機会をいただきました。同会からの「東京社会福祉士会の新規事業に対する理解を深めたい」というご要望を受け、JR王子駅近くの北とぴあ（複合文化施設）で開催された定例会に、生駒部長が伺って事業内容について概説しました。



事業説明後の質疑応答／意見交換では、事業内容にかかるご質問のほか、▼再犯防止の取り組みが叫ばれる背景▼保護司活動や更生保護活動の内容および効果▼立ち直り支援のフィールドに社会福祉士が参画することの意義——など様々な切り口から、参加者ご自身の経験も踏まえたご質問・ご意見が出され、議論が深められました。

立ち直りを支える地域支援ネットワーク事業部では、地区会等のご協力の下、事業説明の機会を持たせていただき、各地区における事業への参画を募っています。2024年度新規支部設立（今年度は3支部を予定しています）の募集も始まりました。説明会開催のご用命は [tachinaori@tokyo-csw.org](mailto:tachinaori@tokyo-csw.org) までお寄せください。

**おおた社会福祉士会**

(5/11実施)

**全国TSネットの全国大会を開催！**

おおた社会福祉士会支部として初のイベントは、5月11日（土）に障がい者総合サポートセンターで開催した「全国トラブルシューターネットワーク2024年度全国大会」となりました。トラブルシューター（TS）ネットワークは、地域で暮らす障害や様々な生きづらさを抱えた人たちの孤立を防ぎ、互いに支え合う社会を目指して、司法・医療・行政・福祉・教育・地域が広く連携し、協働するネットワークづくりを目指した取り組みです。

基調講演では、伊豆丸剛史氏（厚生労働省社会・援護局総務課矯正施設退所者地域支援対策官）に「罪を犯した人への寄り添いから描く『地域共生社会』—その実際と可能性—」というテーマでお話いただきました。そもそも当事者の生きづらさを周囲が想像することがなぜ難しいのか。そして、そんな実際を越えていく可能性を、これまで出会ってきた方々との関わりから伊豆丸さん自身が教えられたエピソードを通して、多角的・重層的に語っていただきました。



全国大会では他に、会場内での各TSのポスター展示、全国各地のTSが代わる代わる取り組みを発表していくリレートーク、他地域メンバーとの交流を目的としたグループワークと、盛り沢山の内容となりました。参加者は会場参加72名、Zoom60名でした。お陰さまで盛況のうちに無事に終了しました。

## おおた社会福祉士会 (6/11実施)

### 「素人だからこそできること」を真摯に継続

おおた社会福祉士会支部は6月19日(水)、大田区消費者生活センターで6月定例会「私が保護司になった理由」を開催しました。参加者は会場参加37名、Zoom80名でした。



ゲストスピーカーの大友秀逸さんは、秋葉原無差別殺傷事件を引き起こした加藤智大元死刑囚の同僚であり友人であった過去を持ち、同様の事件が二度と起きてほしくないという願い、加害者を生まないように予防的な支援活動に個人で取り組んでおられます。各種メディアからの取材で秋葉原事件について語ったり、X（旧Twitter）を中心に生きづらさを抱えた方などから様々な悩み相談に応じたりもされています。「専門家とは違う視点で、自分なりのやり方で、同じ土俵で悩みたい」という大友さんの思いや、保護司になるに至った道のりについて、ライフストーリーを交えてお話しいただきました。

大友さんは社会福祉士や公認心理師といった専門の有資格者ではありません。ご自身を「素人」と自認して、しかし「素人だからこそできること」を真摯に継続されています。わからないことは行政や専門職を頼ってサポートを得ることが大事だといいます。朴訥とした語り口で紡がれる、保護司として“共に悩む”大友さんの等身大の日常は、立直り支援の「原点」をまざまざと思い起こさせる迫力を伴って、参加者の胸を打ちました。

## ●立ち直り支援FAQ

## 事業部に寄せられたご質問にお答えします！

(ご疑問の点は、どうぞメール等でお尋ねください！)



地域ネットワークを作るための事業なのに、支部設立申請書に記載する支部メンバーを東京社会福祉士会会員に限っているのはなぜですか。

本事業が、東京社会福祉士会を対象とした助成を受けて実施する事業だからです。当然に、事業の実施を司る役割は東京社会福祉士会の会員において担うことが求められます。一方で、支部活動への参加は会員に限られるものではありませんので、ぜひ地域で有為の仲間を増やしてください。



この事業は、社会福祉士が保護司になったり、保護司会と連携したりすることが目的なのでしょうか。

この事業の目的は地域ネットワークを作ることです。保護司会はもともと司法の分野で活動している有力な連携先の一つではありますが、全てではありません。地方公共団体のほか、例えば、立ち直り支援を行いうる力を持ちながら、これまで接点のなかった施設・事業所・支援団体等とつながって、この分野での連携の方策を探っていくこと等を目指しています。なお、社会福祉士が保護司になることは本事業の目的ではありません。



この事業は2026年2月末が助成の終期とのことですが、その後はどうなるのですか。

2026年3月以降の活動に対する東京社会福祉士会からの助成はありません。それまでの間に、地域で活動する社会福祉士への信頼を高めて、政策決定過程への参画や予算措置つきの施策の実施主体となれるように、地道に一つひとつ活動実績を積み重ねていきましょう！



立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業のスケジュール

年月	地区会・支部への説明・サポート	支部設立・事業	事業部主催の研修	広域ネットワークづくり	媒体発行	
2024	4月	地区会・支部への説明・サポート			第3号発行	
	5月		あだち支部 ← 地域支援ネットワークづくり			
	6月	地区会への事業説明	おおた支部 ← 地域支援ネットワークづくり			
	7月	個別性談への対応	江東支部 ← 地域支援ネットワークづくり			
	8月		杉並支部 ← 地域支援ネットワークづくり	専門分野別研修 (8/4) 基礎分野別研修 (8/25)		第4号発行
	9月	支部設立・伴走支援 (随時実施オンライン)	西多摩支部 ← 地域支援ネットワークづくり		シンポジウム開催 (9/29)	
	10月		世田谷支部 ← 地域支援ネットワークづくり	専門分野別研修		第5号発行
	11月		三鷹武蔵野支部 ← 地域支援ネットワークづくり			
	12月		地域支援ネットワークづくり	基礎分野別研修		
	2025	1月		専門分野別研修		第6号発行
		2月			シンポジウム開催	
		3月	活動実績発表	基礎分野別研修		

司法福祉に関するニュースを抜粋してお知らせします！

## 司法福祉ニュースレーダー



### 滋賀県での保護司殺害事件を受けて

5月末に滋賀県の保護司が殺害された事件は、本誌読者の皆様におかれては、報道等でご存じのことと思います。

亡くなった保護司の方は、積極的に更生保護活動を進めておられた方です。滋賀県更生保護事業協会の事務局長として、今期の日本更生保護協会・休眠預金活用事業の立ち直りを支える地域支援ネットワーク事業を受託を主導された、屈指のキーパーソンでした。今期の立ち上げイベントでお会いしたときに、立直り支援の必要性について議論を交わしましたが、これからのことを熱くポジティブに語っておられたのを鮮明に覚えています。それだけに、事件を報道で知ったときには、雷に打たれたような衝撃を受けました。

#### 保護司なくして成り立たない わが国の保護観察制度

保護司は、刑務所からの仮釈放者、少年院を仮退院した少年、保護観察付きになった少年や執行猶予者の地域での立ち直りを支援する、非常勤の国家公務員です。ただ、国家公務員といっても有給職員ではありません。保護観察所から依頼を受けて、対象者を社会の中で支援します（社会内処遇のひとつ）。出所前に帰住予定地を尋ね、引受人と面接し、仮釈放後は満期まで毎月対象者と面接を重ねます。

日本の更生保護の中心である保護観察は、いわゆる民間人である保護司なくして成り立たないと言えます。

#### 先の見えない担い手不足 今秋法務省検討会で対策とりまとめ

しかるに、保護司は60歳以上が8割を占め高齢化が進み、先が見通せない担い手不足に陥っています。法務省は「持続可能な保護司制度の確立に向けた検討会」を昨年5月に立ち上げて、担い手不足を中心とする諸課題について議論を積み重ねてきました。今年3月に中間報告をまとめ、10月には本報告が取りまとめられる見通しです。

<https://www.moj.go.jp/hogo1/kouseihogoshinkou/jizokuhogo05.html>

#### 立ち直り支援と保護司制度

7月7日のNHK日曜討論で「再犯防止・社会復帰は～保護司制度を考える」が放映されました。滋賀県の事件をきっかけとしての企画です。逮捕された保護観察対象者であった被疑者は否認しており、事実は未だ判然としません。ただひとつ確かなことは、明治期から120年もの間維持されてきた保護観察制度は、いま曲がり角に立っていて、現状のままではもはや継続が困難である——ということです。

社会福祉士会のメンバーにも保護司をしている方がたくさんおられます。福祉の専門家としても保護司制度について考える必要があります。

（文責：立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業部副部長／司法福祉委員会委員長・小林良子）





## 立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業 専門分野研修

立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業では、対人支援の基礎を押さえたうえで、各種課題への対応およびインクルージョンに向けた啓発活動の実践等を学んでいく、シリーズ化された研修を実施しています。各論を掘り下げる専門分野研修の第2回目、テーマは「性依存症」です。



第2回

### 性依存治療の最前線 ～再犯防止のアプローチ～

性犯罪の傾向や特徴、治療プログラムの実際、社会復帰支援にあたってのポイントや留意点などを学びます

講師：安藤久美子氏（東京医科歯科大学准教授）

安藤先生は、性被害のPTSD治療の症例を重ねる過程で、「被害を防ぐには加害者への治療が不可欠」と確信し、治療プログラム（SPIRITS）を開発。現在長崎でグループ治療を進め、今後東京でも実施の予定。今年5月にワークブックの出版も決まり、注目が集まっています。

日程：8月4日（日）13:30～16:00

形式：リモート（Zoomウェビナー）

定員：200名

対象：関心のある方はどなたでも

費用：無料

申込：[こちらのリンク](#)または右のコードで開く申込フォームよりお申込みください。

東京社会福祉士会ホームページ>本事業特設サイトと辿って開くこともできます。

**応募締切日は7月27日。**



※自然災害の発生、通信状況により、やむを得ず本研修の開催を中止する場合があります。中止の判断基準は、東京社会福祉士会HPの「[自然災害等発生時の研修及び行事等の開催についての判断基準\(ガイドライン\)](#)」をご参照ください



## 立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業

## 基礎分野研修

立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業では、対人支援の基礎を押さえたうえで、各種課題への対応およびインクルージョンに向けた啓発活動の実践等を学んでいく、シリーズ化された研修を実施しています。基礎分野を学ぶ基礎分野研修の第2回目、内容は「動機づけ面接」です。



## 第2回

対象者の変化や自己決定を  
応援できるかかわりを考える

動機づけ面接の手法を手がかりとして、対象者に変化を促し、対象者の自己決定を応援できるような「関係性の作り方」「距離の取り方」について学び、考えます。

## 講師：外川江美氏（帝京大学文学部心理学科教授）

外川先生は、法務技官として少年鑑別所や少年院で長く勤務され、スクールスーパーバイザーとしても活躍なさいました。法務省の矯正の分野でいち早く動機づけ面接法を学び、多くの職員に動機づけ面接の基礎を広めることを通じて、職員のエンパワメントに貢献してきた方でもあります。

日程：8月25日（日）13:30～16:40

形式：会場参集（会場は新宿区内の会議室。受講決定時にお知らせします）

対象：東京社会福祉士会会員で、地域における立ち直り支援に携わっている方または興味関心がある方

定員：15名（先着順）

費用：無料

申込：[こちらのリンク](#)または右のコードで開く申込フォームよりお申込みください。  
東京社会福祉士会ホームページ>本事業特設サイトと辿って開くこともできます。  
**応募締切日は8月9日。**



※自然災害の発生、通信状況により、やむを得ず本研修の開催を中止する場合があります。中止の判断基準は、東京社会福祉士会HPの「[自然災害等発生時の研修及び行事等の開催についての判断基準\(ガイドライン\)](#)」をご参照ください



## 立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業 広域ネットワークシンポジウム

立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業の「広域ネットワークシンポジウム」は、東京都内の立ち直りに関する問題を分野別に検証し、東京都全域の関係者をつなぐ働きかけを行うことを目的としたイベントです。第2回目のテーマは、「医療・就労(障害)・若者」です。



第2回

### 「医療・就労(障害)・若者」

生きづらさの目線——生きづらさインフォームドケアという考え方

司会：今福章二氏(全国更生保護法人連盟理事長)

登壇者：谷 将之氏(大内病院院長) **医療**

高橋信夫氏(武蔵野会理事長) **就労/障害**

川崎タツキ氏(NPO法人しあわせ代表理事) **若者支援**

日程：9月29日(日) 13:30~16:30

形式：会場参集+リモート(Zoomウェビナー)のハイブリッド形式

会場：福祉財団ビル7階大会議室

対象：関心のある方はどなたでも

定員：200名(?)

費用：無料

申込：[こちらのリンク](#)または右のコードで開く申込フォームよりお申込みください。

東京社会福祉士会ホームページ>本事業特設サイトと辿って開くこともできます。

**応募締切日は9月20日**。ただし、会場参集は先着順で定員40名



※自然災害の発生、通信状況により、やむを得ず本研修の開催を中止する場合があります。中止の判断基準は、東京社会福祉士会HPの「[自然災害等発生時の研修及び行事等の開催についての判断基準\(ガイドライン\)](#)」をご参照ください

お問合せは、東京社会福祉士会事務局まで TEL：03-5944-8466 MAIL：tachinaori@tokyo-csw.org

# Informaion

## ●支部設立 今年度は残り1枠、お急ぎください！

立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業部では、2024年度に3支部の設立を目指しているところ、2支部がすでに発足し、残っているのは現在あと「1枠」です。先着順となりますので、今年度中の事業開始を企図されている地区会におかれては、準備をお急ぎください。

支部は、東京社会福祉士会会員3名以上で設立が可能です。本事業の趣旨に合致すると認められた場合には、2024年度に40万円、2025年度に20万円という活動資金の助成を受けることができます。詳しくは本事業部の特設サイトをご参照ください。また、支部設立に関するご質問、ご相談は下記アドレスへお寄せください。

なお、既に事業開始している支部（あだち、おおた、江東、杉並、世田谷、西多摩、三鷹武蔵野<五十音順>）がある地区については、既存の支部の活動に加わっていただくことが基本となります。ご希望があれば各支部にもおつながりしますので、どうぞお問合せください。

### <質問、相談、問合せ先>

tachinaori@tokyo-csw.org（立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業部共用アドレス）

## ●実践研究大会 演題募集中！支部活動の報告でぜひご参加を

東京社会福祉士の「実践研究大会」が本年11月23日（土・祝）に開催されます。

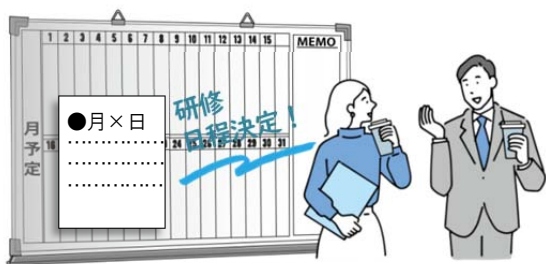
実践研究大会は、ソーシャルワークの専門職団体である東京社会福祉士会が、「会員一人ひとりの実践力向上」「福祉にかかわる今日的課題の追及」「ソーシャルワークの価値の発信」を目的として開催している学術集会です。コロナ禍のあおりを受け、2019年以降一度も開かれてきませんでした。以来、5年越しの開催となります。会場は文京学院大学本郷キャンパス（最寄り駅は東京メトロ南北線「東大前」）。

その実践研究大会で、現在、演題を募集中です。事業部では、実践研究の発表を行うべく、準備を進めています。支部の皆様におかれても、支部活動を題材とした発表をしてみませんか。実践研究大会を盛り上げることで、新たな仲間を得ることにつながり、支部活動に一層の弾みがつくのではないかと思います。よろしければ、ぜひご検討ください。応募締切は9月1日（日）です<必着>。

募集しているのは、①実践研究、②文研研究、③実践報告の3類型で、発表形態としては「口述発表」と「ポスター発表」があります。詳しくは以下の案内をご覧ください。

<https://tokyo-csw.org/content/02fukushi/06jissen/2024/0522.html>





## 2024年8月～10月の動き



月日	予定
随時	事業説明会（各地区又はオンライン）
8/4（日）	専門分野別研修Ⅱ「性依存治療の最前線～再犯防止のアプローチ～」（リモート） ——詳細は9P参照
8/4（日）	おおた社会福祉士会・精神障害当事者会ポルケ8月拡大定例会（会場参集＋リモート） 「第74回“社会を明るくする運動”地域集会」——詳細は <a href="https://x.gd/eljP8">こちら</a> → <a href="https://x.gd/eljP8">https://x.gd/eljP8</a>
8/25（日）	基礎分野研修Ⅱ「対象者の変化や自己決定を応援できるかわり考える」（会場参集） ※受講対象は東京社会福祉士会会員限定——詳細は10P参照
9/29（日）	第2回広域ネットワークシンポジウム「医療・就労（障害）・若者」（会場参集＋リモート） ——詳細は11P参照

## リレーコラム

立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業部員が持ち回りで呟きます

## 立ち直り事業部に期待すること

## 立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業部担当理事 古川善朗

私は長く「労働と福祉」の関係に取り組んで参りました。社会保険労務士・社会福祉士の仕事の実践を通して、常に「働き方改革」（職業寿命、健康寿命、資産寿命を延ばす）を心に秘め、社会保障制度（社会保険と社会福祉）をワンストップ（雇用・年金と福祉など）で対応できる専門職として実践場面に真摯に対応して参りました。

さて、司法の分野においては長らく保護司が活躍してこられました。この度、当会では休眠預金を活用できることとなり、この分野を社会福祉士の活動のフィールドとして展開できるとすれば大変貴重な機会だと思っています。

保護司制度は、5月のG7（先進国首脳会議）において、わが国の誇る再犯防止の仕組みとして先進国首脳に披露されるほどの、重要な制度です。「立ち直り」を様々な方々に関心を持っていただくことで、現在当会で注力している地区会の活性化と若手の入会促進のきっかけにもなるものと考えています。

先日開催された拡大運営部会では、事業部、支部の皆様のエネルギーに触れ、この熱意を是非とも活かしたいと感じました。国民の社会正義の味方、福祉のプロ集団として、この事業から再犯防止につながる制度の提言などで、ソーシャルアクションへの発展を願い、担当としてその後押しする気持ちを新たにいたしました。（聞き手：藤田知美）